

## ■東京大賞典（GI）アラカルト（過去全 63 回の分析）

---

- ※第 1 回（昭和 30 年）から第 9 回（昭和 38 年）までは「秋の鞍競走」の名称で実施
- ※第 10 回（昭和 39 年）からは「東京大賞典」の名称で実施
- ※第 1 回（昭和 30 年）から第 7 回（昭和 36 年）までは大井ダ 2,600m で実施
- ※第 8 回（昭和 37 年）から第 34 回（昭和 63 年）までは大井ダ 3,000m で実施
- ※第 35 回（平成元年）から第 43 回（平成 9 年）までは大井ダ 2,800m で実施
- ※第 44 回（平成 10 年）からは大井ダ 2,000m で実施
- ※第 41 回（平成 7 年）からは指定交流競走として実施
- ※第 57 回（平成 23 年）からは国際競走として実施
- ※記録は平成 30 年 12 月 5 日時点

### ■ 1 番人気馬のうち 3 分の 2 は 3 着以内を確保

単勝 1 番人気馬は 21 勝、2 着 14 回、3 着 7 回で、3 着内率が 66.7%、単勝 2 番人気馬は 12 勝、2 着 13 回、3 着 8 回で、3 着内率が 52.4%、単勝 3 番人気馬は 11 勝、2 着 9 回、3 着 8 回で、3 着内率が 44.4%となっている。上位人気馬はそれなりに信頼できるようだ。ちなみに、単勝 10 番人気以下で優勝を果たした馬はまだいない。

### ■ 近年は上位人気勢の健闘が目立つ

過去 63 回のうち 44 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 25 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 6 回ある。なお、第 54 回以降の過去 10 回中 9 回は単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着、4 回は単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着だ。

### ■ 昨年は 30 年ぶりに 7 歳馬が勝利

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 16 勝、4 歳が 21 勝、5 歳が 16 勝、6 歳が 6 勝、7 歳が 4 勝となっている。ちなみに、昨年の第 63 回（平成 29 年）を制したコパノリッキーは当時 7 歳だったが、7 歳馬の優勝は第 33 回（昭和 62 年）のテツノカチドキ以来で、実に 30 年ぶりである。

## ■“連覇”を達成した馬は3頭

東京大賞典において2回以上の優勝経験がある馬は、第30回（昭和59年）と第33回（昭和62年）を制したテツノカチドキ、第50回（平成16年）と第51回（平成17年）を制したアジュディミツオー、第56回（平成22年）と第57回（平成23年）を制したスマートファルコン、第59回（平成25年）と第60回（平成26年）を制したホッコータルマエと、これまでに4頭いる。なお、テツノカチドキを除く3頭は2年連続の優勝だ。

## ■牝馬は6勝、外国産馬は3勝

東京大賞典において優勝を果たした牝馬は、第1回（昭和30年）のミスアサヒロ、第13回（昭和42年）のヒガシジヨオー、第35回（平成元年）のロジータ、第38回（平成4年）のドラールオウカン、第39回（平成5年）のホワイトシルバー、第46回（平成12年）のファストフレンドと、これまでに6頭いる。また、外国産馬は第43回（平成9年）のトーヨーシアトル、第49回（平成15年）のスターキングマン、第62回（平成28年）のアポロケンタッキーと、計3勝をマークしている。

## ■JRA所属馬が“12連勝”中

指定交流競走となった第41回以降の計23回に限ると、地方所属馬は4勝、2着5回、3着8回、JRA所属馬は19勝、2着18回、3着15回となっている。ちなみに、優勝を果たした地方所属馬は第51回（平成17年）のアジュディミツオーが最後、連対を果たした地方所属馬は第56回（平成22年）2着のフリオーソが最後、3着以内となった地方所属馬は第60回（平成26年）3着のサミットストーンが最後だ。

## ■騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、5勝の武豊騎手が単独トップ。4勝の内田博幸騎手が単独2位、3勝の赤間清松騎手、佐々木竹見騎手、幸英明騎手が3位タイとなっている。

## ■調教師別の歴代最多勝記録も「5」

調教師別の勝利数を見ると、5勝の小暮嘉久調教師が単独トップ。4勝の大山末治調教師が単独2位、3勝の岡部猛調教師、出川己代造調教師が3位タイとなっている。

## ■ 1 番、15 番、16 番の馬は未だ 0～1 勝どまり

枠番別勝利数を見ると、8 枠（12 勝）が単独トップ。6 枠（10 勝）が単独 2 位、2 枠（9 勝）が単独 3 位となっている。ちなみに、もっとも勝利数が少ないのは 1 枠（3 勝）だ。また、馬番別勝利数を見ると、2 番（8 勝）が単独トップ。5 番（7 勝）が単独 2 位、3 番と 13 番（各 6 勝）が 3 位タイである。ちなみに、未勝利の馬番は 15 番のみだが、1 番と 16 番もそれぞれ 1 回ずつしか優勝例がない。

<伊吹雅也>